



《将来に向けた取組方針》

豊田自動織機グループでは「2050年めざす姿」の中で「生物多様性にプラスの影響をもたらす」を掲げ、自然環境への影響を常に認識しながら、さまざまな事業活動を進めています。また、中期的な活動計画である環境取組プランにおいて、「各工場の特徴を活かし、地域の生物多様性保全に寄与する活動」を推進しています。

〈具体的取組み事例〉

『人と自然、地域をつなぐビオトープ』



ビオトープの小川に魚を放流する子供たち

大府工場近くに、「地域の自然の見本園」をコンセプトに周辺の緑地や水辺とのつながりを生み出し、さまざまな生き物呼びよせることのできる環境を創出しています。

また、ビオトープは地域の方々へ開放しており、憩いの場としても定着しています。

ごんぎつねを守れ!

『アニマルパス 整備による生息域の拡大』



アニマルパスを利用するキツネ

東浦工場周辺では、近年キツネの生息が確認されるようになった一方で、キツネの交通事故死が発生していました。そこで、工場敷地内にキツネが安心して行き来できるようにアニマルパス（人工の獣道）を整備しました。キツネの他に、タヌキやノウサギなどもアニマルパスを利用しています。